

組織現勢 (10月1日現在)

組合員数	18,953世帯
出資口数	86,959口
9月の新規加入	23世帯
9月の増資口数	204口

No. 354 再生紙を使用しています。

城南の保健

発行所
城南保健生活協同組合
 本部事務局 大田区大森東4-6-15-101
 TEL (3762) 0266
 振込銀行 さわやか信用金庫大森支店
 口座(普) 0469459
 発行 「城南の保健」編集委員会
 毎月1回発行・定価1部 30円

仲間ふやし月間成功へ向けたステップ!

第4回 城南3法人生協組合員活動と医療・介護活動交流会



こうした組合員と職員の交流を通して、共同の営みを広げ、安心して住み続けられるまちづくりをさらに広げていきます。

職員からは、なかなか知ることのできない医療の現場のことや、訪問介護の事例紹介などが報告されました。また、大田病院の細田先生からは、医療・介護と、ものづくりの連携を目的としてつくられた介護支援研究会の5年間のとりくみと今後の課題が発表されました。

色部祐さんからは「地域住民のアスベスト被災の実態と今後のとりくみについて」、戸張洋子さんからは、発足2年目を迎えた「羽田いきいき体操クラブのとりくみについて」を発表。また、健康体操サポーター養成講座に参加し、体操指導を学んだ斉藤茂子さんと吉沢祐子さんからは「健康体操サポーターとして、下丸子健康体操班を指導した1年」という発表がありました。

9月29日(土)、今年で4回目となる活動交流会。組合員と職員の交流の場として、また、仲間ふやし月間成功へ向けたステップの場として開催されました。会場は、大田病院アネックス棟、2会場で分散会形式で17演題の発表がありました。参加は90人でした。

参加者の感想

- 笑いあり、学びあり、本当に楽しい時間を過ごせました。
- さまざまな事業所が生き生きと活動されている様子が聞いてとてもよい刺激になりました。
- 地域住民として、医療介護のとりくみを考える貴重な機会でした。
- アスベスト被害、これからも深刻さが増すことを知り怖さを感じました。
- 介護支援研究会よかったです。羽田いきいき体操クラブよかったです。
- 複数の新しい職員がイキイキと発言しているのを見て、たのもしくうれしく感じました。
- お元気ですか訪問がよかった。地域の人の訪問を通して根ざした活動はすばらしい。
- すべてよかったです。地域のみなさまのコツコツと仲間づくりをしている様子が印象的でした。
- 生協理事の星野さんのはとってもよかったです。励まされます。
- 全部興味深かったですが、アスベストはこんなに身近に危険なところがあったのは驚いた。
- 訪問介護の輝き事例紹介、ヘルパーさんのあたたかい介護の様子が伝わってきました。

2012年度月間目標

月間中の仲間ふやし目標は	…… 630世帯	到達(10月16日現在)	102世帯
大腸がん検査	…… 450人		250人
いつでも元気購読	…… 30部		2部
コムコム購読	…… 10部		0部



大田病院玄関に立看板がつけられました

仲間をふやして 大田・品川をより住みやすい まちにしていきたいと思います!

10月1日からスタート!! 月間目標達成に向けて、今年もさまざまなとりくみを行っています。

城南3法人の職員全員が「城南保健生活協同組合」のワッペンを付けています。全事業所に「城南保健生活協同組合」の看板を掲げています。

左記の日程で大田病院周辺地域の地域訪問行動を行っています。ご都合のつく方はぜひご参加いただき、安心して住み続けられるまちづくり運動の輪を広げていきましょう。

11月の訪問行動の日程は6日(火)・10日(土)・13日(火)・20日(火)・27日(火)です。時間はすべて13時30分~15時30分の2時間。参加できる方は生協本部までご連絡をお願いします。

訪問は、2~3人一組で加入のお願いをします。地域ごとに訪問行動が予定されている支部もあります。詳細は、生協本部にお問い合わせください。

腹八分

古い朝鮮の民話に「ネギを植えた人」という話があります。昔のむかし朝鮮のある村では、何度も飢饉に襲われ、いつか村人は人間が牛に見えるようになって、人が牛を食べるようになって人々を食べる習慣が生まれてしまいました。そんなとき、ひとりの旅人が村を通りかかりました。旅人は嘆き悲しむ様子を見て、ネギを植えることを教えます。村人がネギを食べると人間が人間に見えるようになって村人は救われました。日本にだって人間が人間に見えない時代がありました。戦前までの日本には重い身分制度が残っていて、大地主と小作農民、資本家と労働者の関係は人と道具のようでした。軍隊の中でも家庭の中でもやはり同様でした。隣国との関係でも日本の軍国主義の関わりを破壊してきた歴史があります。しかし、人間を人間と見ない勢力には必ず破壊が訪れます。日本は大きな犠牲を払い敗戦を迎えました。日本は新たな出発をしました。憲法も改めました。その憲法はすべての人類がお互いに人間に見えることをめざしたものでした。しかし、いまそれが崩れかけようとしています。大企業の責任放棄で、職場には派遣という名で呼ばれる労働者が増えています。人間の尊厳を現す名前を奪われてしまったのです。かつてその国の人びとを蔑む呼び方がありました。戦前への回帰が心配です。政治の世界でも戦前を美しい国と描く人びとの勢力が増大しています。それは人間が牛に見える時代に導きます。